

中心部だけがよくなり、 周辺部がさびれてしまうのでは？



地図を開いてみましょう。

日本のどこの市町村にも、中心部と周辺部が必ずあります。

しかし、市役所や役場に近ければ、それだけで中心部なのでしょうか？

市町村の区域の中には、多くの顔があります...「住宅ゾーン・農業ゾーン・商工業ゾーン、そして自然ゾーン」

様々な“顔”、それぞれの“役割”

地域の様々な特性が共生し、ひとつの“まち”が形成されています。

もし、「さびれる」ということが「賑わいがあるか」という議論だとすると、

合併に関係なく「中心市街地の空洞化」は、既に大きな行政課題の一つとなっています。

4市町村の商圈の現状を見てみましょう。

(資料：長野県商圈調査)

項目 市町村名	地元滞留率※			吸引力係数※		
	平成12年	平成15年	差引増減	平成12年	平成15年	差引増減
佐久市	93.8%	93.8%	0.0%	202.0%	230.6%	28.6%
臼田町	46.0%	32.0%	△14.0%	74.9%	56.0%	△18.9%
浅科村	6.7%	0.8%	△5.9%	6.7%	0.8%	△5.9%
望月町	31.3%	18.7%	△12.6%	35.4%	20.7%	△14.7%

〈参考〉

上田市	93.3%	93.4%	0.1%	139.0%	139.1%	0.1%
小諸市	58.2%	46.4%	△11.8%	70.0%	53.0%	△17.0%

※ 地元滞留率：居住する市町村で主に買い物をする世帯の割合

※ 吸引力係数：地元滞留人口と流入人口（その市町村の実質的な買物人口）を居住人口で割ったもの

合併に関係なく、この3年間での商圈の著しい変化の状況がわかります。

合併による新しいまちづくりは、新市建設計画に基づいて、地域特性を活かしながらバランスのとれた発展が図られるように進めていきます。

「中心市街地や既存商店街再活性化の推進」も、その中のひとつです。

佐久市・臼田町・浅科村・望月町 地域で培われてきた個性、様々な“まちの顔”

まちの絆

それぞれの個性が
共に輝くまちづくり

ひとつの絆

叡智と情熱が結ぶ、21世紀の新たな文化発祥都市

市町村合併は、地域の個性が共に輝く“新しいふるさとづくり”です。